

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年2月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3890101037
事業所名 (ユニット名)	グループホームミネルワ 1階 睦月
記入者(管理者) 氏名	中田明伸
自己評価作成日	平成31年1月19日

<p>「心」と「心」の対話と傾聴を基本として 利用者の「今まで」「今」「これから」を共有し、お一人お一人に寄り添ったケアに努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職員一人一人が日々の関わりを振り返る。・認知症の方に対する関わり工夫と勉強会を開く。 ・虐待・身体拘束の研修年2回行った。・職員の意識は変わったと思う。 ・行動指針を作成、毎朝提唱している。・事業所の方向性はできた。 2. 家族に分かりやすく消防・防災計画を表示する。・避難場までの地図を掲示、消防訓練に参加により、理解はされたと思う。 3. 事業所の運営上に関する事をわかりやすく広告する。・運営推進会議での報告、議事録を家族に送付している。 4. 会議を有意義な時間と取り組みに努める。・内容は参加者よりこれでいいと意見を頂く。内容の見直しに努めた。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>医療機関を母体施設に持つ事業所であり、主治医、訪問看護師、理学療法士との協力体制に加え、歯科医師とも連携が取れている。現在、利用者の多くは身の回りのことは自立しており、事業所は、レクリエーション活動などのプログラムに力を入れている。静かな住宅地に位置し、事業所周辺での散歩を日課としている利用者も多い。男性職員が多く、法人内で人事異動があるため、ベテラン職員と新人職員のバランスもよく、穏やかで家庭的な雰囲気が印象的な事業所である。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者に寄り添い会話の中からくみ取っている。	◎	/	○	入居時に利用者や家族から聞き取り、入居後も継続して思いの把握に努めている。特に一對一の支援の場面において本音を引き出しやすいと考えている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の立場にたって考えたり、職員同士で本人の思いを検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に聞いている。必要時には電話をして聞いている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人や家族から得た情報や思いを記録し、共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の生活の中や会話の中から本人の思いをくみとるよう努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に得た情報の他に、家族様との会話の中から新たな情報がないか探している。	/	/	△	家族の面会時や利用者から生活歴を聞き取っている。私の暮らし方シートを活用しているが、情報を整理することでより深い理解につなげることができるため、更新を加えながらシートの活用を増やすことに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	職員の思い込みにならないよう、色々な場面から把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	職員同士が情報を共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	変化の原因をカンファレンスで話し合い、把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録や申し送り等で共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンスで支援方法について話し合っている。	/	/	○	日々の暮らしの中で新しく把握した事柄は、申し送りノートで共有し、毎月のカンファレンスで検討している。カンファレンスでは、事前に家族に意見を聞いておき、それらを踏まえて検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	家族、医療と連携して、必要な支援を検討している。主にカンファレンスで検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で話し合い、課題を明らかにして取り組んでいる。	/	/	/	

愛媛県グループホーム ミネルワ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケア内容は、一目で分かるよう要点をまとめている。	/	/	/	面会時や電話連絡時に家族の意向を伺い、思いを反映させた介護計画になるよう努めている。定期的に訪問している主治医や歯科医師、訪問看護師等の意見も踏まえて検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	3ヶ月おきにモニタリング、どうすれば問題解決するか話し合っている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になっても、今までの生活が送れるように支援している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族と共有し、協力している。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランをファイルに挟んでいる。 重要な支援内容は分かるようにしている。	/	/	○	短期目標を書き出してファイル表紙の裏面に貼付し、確認しやすいように工夫している。日々の実践記録は、短期目標に対しては○×でチェックし、確認している。暮らしの様子はケア記録に記載しているが、職員による気づきや工夫、アイデアを盛り込みながら充実した記録内容にしていきたいと考えている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングで評価し、ケアを実施、記録している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記載している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	カンファレンスの際話し合っている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月毎にカンファレンスにて見直している。	/	/	◎	介護計画は3か月ごとに見直しを行っている。毎月のカンファレンスで全利用者の現状確認を行い、利用者が体調を崩した際には状態の変化に応じ、利用者や家族に意向を伺いながら、随時見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	職員同士で情報共有し、状態把握に努めている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があれば必ず家族に連絡し、状態報告している。 随時カンファレンスを行い見直しをしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ミーティング時及び随時カンファレンスをしている。	/	/	○	毎月のカンファレンスで課題について話し合い、緊急案件がある場合には日々申し送りで話し合いを行っている。話し合いでは、事前に担当職員がモニタリング表を記入して準備し、皆で検討していく形をとっている。カンファレンスの記録は当番で職員が行っており、会議録を回覧して情報共有に努め、参加できなかった職員は会議録を回覧し確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議の前に1分間対話を行い、話しやすい雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日を決めており、可能な限り参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成しており、確認したらチェックを入れ内容把握している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	送りノートに内容等記入し、確認したらチェックを入れ情報共有に努めている。	/	/	○	会議録や事業所全体の申し送りノート、ユニットごとの申し送りノートを活用し、情報を伝達している。確認後にはチェックや押印をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝・夕の送りや申し送りノート記入・確認により伝達している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者からの希望がなかなか出ず、スタッフが聞き出す努力をしたり、時期に応じた事を提案したりしている。	/	/	/	更衣やレクリエーションなど、暮らしの様々な場面を選択の機会としている。意思表示が少なくなってきたと感じる利用者もいるが、簡単に選択ができるように工夫して声をかけている。自立度が高く、レクリエーションを好む利用者が多いため、職員が積極的に場の雰囲気盛り上げる様子が見られた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定して頂けるよう待つ、声かけ、種類を増減したりしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自ら意思表示されない事が多く、スタッフから問いかけ、希望を聞くようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	日中の過ごし方は本人のペース・体調に合わせて支援できている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	スタッフが明るい言葉掛けやコミュニケーションを心がけるようにしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の意思に添えるよう本人がしていた事や表情を見たり聞いたりしながら支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	話をする時は命令口調にならないように優しく声かけをしている。	◎	○	○	人権やプライバシーへの配慮といったテーマは、年間の研修計画にも盛り込み、定期的に学習している。難聴の利用者への対応や、職員自身が慌てている時には、つい大きな声になりがちだとの気づきがある。居室への出入りはノックや利用者への声かけを行い、配慮が感じられた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	排泄状態を聞く時は、小声で聞く等配慮している。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	カーテンや扉を閉める。入室前はノック、声かけをしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	必ずノック、声かけをしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員はプライバシーや個人情報等勉強会を行い、プライバシーの保護に努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	食器拭きや洗濯物をたたんで頂き助けられている。その都度「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	利用者の状態に合わせ、様子を見ながら必要に応じて職員が間に入り、トラブルを未然に防いでいる。状況に応じて配席を変更することもある。食事時間帯になっても姿を見せない利用者を、他の利用者が自主的に誘いに行く様子もあり、馴染みの関係が構築されている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で支え合っている場面があり、共に感謝の気持ちで支え合っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	馴染みの関係ができ、お互いに気をかけている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	話しを聞いたり、距離を置く等している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム ミネルワ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	面会簿に記入して頂き、家族様から情報・聞き取りにより把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者との会話や入居時の聞き取り、家族・知り合いとの交流にて把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	会いに来てくれる事はあるが、こちらからは出掛けていない。手紙が届くこともある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	玄関は施錠しておらず、いつでも来所でき、居室あるいはフロアで一緒に過ごすことができる。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	季節に応じた外出を心がけている。天気が良ければ散歩やドライブを楽しんでいる。	○	×	○	定期的に外出行事を計画し、季節に応じた気分転換を図っている。重度の利用者も含め、事業所周辺の散歩を毎日実施し、無理のない範囲で気軽な外出を楽しんでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	家族の協力はあるが、地域・ボランティアの協力は得られていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	同じものを見、体験できるよう心掛けている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族様の理解のもと、送迎バスを利用して外出している。対応は職員のみとなっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	日々状態を記録し、変化があれば申し送り・カンファレンス等を行い、ケア方法を実施している。	/	/	/	できるだけ利用者が自分で移動できるよう、立ち上がりバーの設置などの環境整備を行っている。できることが継続できるよう、ハサミや針仕事も職員が見守って積極的に行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	リハビリや体操をプランに基づき毎日実施し、残存能力の維持・向上に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	できること、できそうなことは極力挑戦してもらうように努めている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	フェイスシートに記載し、職員全員が目を通し、把握できるようにしている。	/	/	/	日めくりカレンダーをめくる係やプランターの水やり等を行う係、食器洗いを自主的に行っている利用者もいる。茶道が得意な利用者があるため、年に数回皆にお茶を点てるイベントを実施し、楽しみにつながっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	本人のレベルに合った作業・レクリエーションを検討し提供している。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の秋祭りには表へ出て楽しんでいる。地域の文化祭に参加した。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人の着たい服を着てもらったり、整容・頭髪にも気を配るようにしている。	/	/	/	食事の際の食べこぼし等は、さりげなく職員がフォローする様子が見られ、季節に応じた適切な身だしなみが整うように配慮している。重度の利用者も同様で、家族の協力を得ながら支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	家族に協力してもらい、身の回りの物は本人の好みに合わせた物を準備してもらっている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	いくつか選択肢を提示し選んでもらっている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	私物の中から、本人とその場面に合わせた更衣をしている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	乱れ、汚れがあれば都度整容、着替えを声かけにて行っている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	美容室には行っていないが、美容師が来訪し希望の髪型にしてくれている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	季節に合った服を選び、整容もしている。窮屈になった服については連絡し体に合った物を持参促している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	嚥下・咀嚼状態を気かけ、摂取量を把握し、食事の大切さを理解している。	/	/	/	調理専門のパート職員が、両ユニットの調理を担っている。調理専門職員が休みの際は業者の宅配メニューを利用しているが、残食が多いことから、職員による調理を検討している。洗米や調理の下ごしらえを利用者が手伝っている。利用者の好みを取り入れ、季節を実感できるような旬の食材を使用し、苦手なものは代替食材に変更する配慮がある。誕生日には外食が計画され、何を食べに行きたいか相談することも楽しみの一つとなっている。食器類は、入居時に使い慣れた物を持参される利用者もいるが、買い物で職員と選ぶ利用者も多い。利用者の食事サポートを行うため、職員は利用者とは別で食事をしており、行事の際のみ一緒に食べている。今後は利用者と職員が食卓を囲み、一緒に食事を取るよう努めてほしい。重度の利用者も同じ空間で食事を楽しんでおり、積極的な声かけを行っている。おやつ作りの他、ホットプレートを使用したメニューなど、利用者と一緒に楽しみながら調理できる機会も設けている。法人内の栄養士にアドバイスを受けて、利用者の飲み込みについて言語聴覚士に相談することもある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	簡単な手伝いや食器拭きなどしてもらっている。おやつは一緒に作ったりもしている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	協力やできることをお願いすると、嫌がらず進んでしてくれる。利用者から言ってくれることもある。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	職員全員が把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	会話の中で食べたい物・好きな物を聞き、調理の方に伝えている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人に合わせた形態で提供している。目で見て楽しめるよう色取りにも注意している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	一人一人に決まったものを使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	同じ食卓の食事はとっていないが、食事中は常に目をいき届かせ、必要に応じて声掛け、介助をしている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	調理にあまり利用者が関わっておらず、音は難しいが、においや会話で何の料理か伝えている。	/	◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事が片寄る方には声掛けをしたり、1食を食べるのが難しい時は、次の食事ととれるよう声掛けをしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	職員間で状態を共有し、補助飲料がある方は施行。また、おやつ等で食べやすい物、本人の好むものを提供している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	リクエスト食、味付けなど職員間で話している。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日あるいは定期的に消毒を行い、衛生管理に努めている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後の口腔ケア実施し、不十分な方は職員が介助するなどして実施している。	/	/	/	毎週歯科衛生士によるチェックを受け、口腔内の健康状況を把握している。毎食後、職員が声をかけ歯磨きを行い、できないことを職員が介助している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	往診で来られるしばた歯科に定期的にも受診・検診を施行している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	アドバイスを受け、食後のお茶によるうがい等を施行している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日声掛けにて義歯を外して頂き、消毒液につけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来る人は声掛けを行い、丁寧に磨いて頂いている。介助が必要な方は歯磨きの後仕上げ磨きを行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	往診の歯科を利用している。不具合時は定期でなくても受診している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	ズボンの上げ下げなど出来る事はして頂いている。紙パンツが上げにくい時はサイズを検討している。	/	/	/	できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。おむつを使用している利用者も、日中は積極的にトイレでの排泄支援を行っている。毎月のカンファレンスでは、排泄用品の使用が適切かどうか話し合いを実施している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	自然排便ができるよう水分摂取や運動をしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	職員が情報を共有し、利用者に向けた習慣を把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄チェック表を見ながら、声掛け・誘導を行っている。利用者の尿量や状態に応じてその方に向けた支援を提供している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で話し合いながら、改善に向けた取り組みをしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表により、利用者それぞれのパターンを把握し支援している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人が着脱しやすいよう、本人と話し合い支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	一人一人の状態に合わせて支援している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	自然排便ができるよう支援している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	ゆっくり浸かりたい方・熱めが好きの方等一人一人の希望にそうよう工夫している。季節によって入浴回数を変えている。	◎	/	○	アセスメントで湯温の希望といった利用者ごとの好みを把握し、支援に活かしている。大まかに午前中の中の入浴時間を設定しているが、希望があれば毎日でも対応可能であり、夏場には回数を増やす配慮を行っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人浴を提供し、入浴剤を使いリラックスして入浴できる様工夫している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	声掛け・見守りを行い、本人の出来る事を尊重している。脱衣場の温度に注意している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否があった場合、時間をおいて再度声掛けを行い、無理な場合は日を変える等対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎日のバイタルを把握し、通常と違う時は日を変えたり、清拭にする等対応している。入浴後は水分摂取を行い、状態を見ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	必ず夜勤者が日勤者に申し送りをを行い把握している。	/	/	/	服薬に関しては主治医と連携して対応している。日中身体を動かしたり、日に当たって活動的に過ごすことで薬を中止できた例もあり、減薬に向けての支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜眠れなくなる方は昼寝を促さず、日中は起きて頂くよう気を付けている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中は運動をして頂く等夜眠れるよう工夫している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その日の体調や様子に応じて休まれたり、休まれなかったりできるように対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	家族様からの電話は取り次ぎ、本人から強い希望があれば電話をしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	支援できていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	家族関係もあり支援できる方はしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙やはがきは本人に渡し、返信をしたい希望があれば対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族様から電話を頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	お金の所持はしていないが、大切さは理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	職員と一緒に出かけ機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	利用客が少ない時間帯に出かけ、理解して頂けるよう努めている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金の所持はしていない。希望があれば家族様と相談し、使用できるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	日用品・行事等その都度家族様に報告している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	本人・家族様の同意を得ている。現金のお預かりはしていない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人・家族様の意見を聞き、支援できるよう努めている。	◎	/	○	家族の要望を受けて、医療機関の受診に同行している。利用者や家族のその時々ニーズに柔軟に対応したいと考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関正面に利用者作成作品を飾ったり、季節感のある物を飾っている。	◎	○	○	色とりどりの花をプランターで育て、玄関まわりは清掃が行き届いている。地域のボランティアや近隣住民の出入りが定期的であり、気軽さが伺える。		
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	利用者と一緒に作った季節の装飾を飾っている。	◎	○	○	季節の壁面装飾は利用者と一緒に作ったもので、和やかな共用空間になっている。毎日の清掃や換気で清潔に管理されている。室内で観葉植物を育て、BGMを流しながら快適な空間づくりを行っている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日清掃し清潔に努めている。消臭スプレーや換気を行い、臭いがこもらないようにしている。					○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を飾ったり、旬の食材を使った料理を作り、目・臭い・舌で季節を感じている。音楽を流し、居心地のいい環境を作っている。						○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方々を近くにする等している。窓辺にソファを置き居場所の工夫をしている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	使用している時は必ず扉を開けている。						
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居心地の良い環境作りに努めている。	◎		○	利用者はたんすや椅子、鏡台や家族の位牌などの大切なものを持ち込んで、それぞれが居心地良く生活できるよう、環境づくりに努めている。		
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	分かりやすく目印をつけたり、大きく表示する等工夫している。				◎		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	環境整備に努めている。				トイレや浴室には、利用者が認識しやすいように大きめの表示で工夫している。歩行が自立している利用者がスムーズに立ち上げられるよう、トイレには立ち上がりバーを追加し、できることを継続させられるよう環境整備に努めている。		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	馴染みの環境に努めている。						
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は必ず玄関を開放している。	◎	◎	◎	日中は施錠せず過ごしている。職員は鍵をかけない暮らしについて理解し、利用者の帰宅願望の強い時や落ち着かない日には、常にそばに寄り添って支援に努めている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	理解できており、現在施錠を望む家族様はおられない。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関を開放し、人感センサーをつけている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	病状、病歴やフェイスシートを確認している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者を観察し、状態の変化に注意して気付いた事は必ずケア記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	報告・相談をしている。連携はできている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	母体病院で対応している。他科受診は家族様をお願いしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	病院と相談しながら、適切な治療を受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	その都度報告している。必要があれば家族同行もお願いしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	書類を作成し、情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院と連携して退院できるよう努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	往診時、訪問看護に相談し関係作りを努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎日状態報告を行い、情報共有できている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪看に連絡、母体病院とも連携できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	訪看・往診時に相談している。異常があれば早急に連絡している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋を確認し理解に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	担当者を決め、服薬確認している。服薬時には名前・数量・日時・口腔内を必ず確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用の理解に努め、利用者の状態確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	毎日状態報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態変化が見られた方の家族様には、看取りの話をすすめ、意向の確認をしている。	/	/	/	母体が医療機関であり、主治医や訪問看護師などの医療関係者と密に連携を図り、重度化や終末期の在り方について家族と方針を共有している。現在までに看取りの経験はないが、勉強会を開催して理解を深めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	訪看・病院と連携して、方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	看取りの経験はないが、勉強会を行い、支援できるように努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	看取りの希望がある家族は理解できている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	一日一日を素敵に暮らせるよう連携を図り、チームとして支援できるように努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	状態を伝え、家族様が向き合える支援をしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	情報収集や専門職へ相談する等している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練はしていないが、マニュアルは備え付け、手順にそった対応ができるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政・医療機関からの情報は得ている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	行政機関の情報をもとに感染予防に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	外出時マスク着用、帰所後の手洗い・うがいは徹底している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	手紙や面会時に日常の様子を伝えている。				毎日のように食事介助に来所する家族もいる。季節ごとの大きなイベントは、各家族に案内し、大半の参加・協力を得ている。毎月利用者の暮らしぶりを写真を添えて伝え、面会時にも報告するように努めている。事業所の出来事や職員の異動などの報告も積極的に行っている。家族には気軽に相談してもらえるよう、声かけに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	職員の接遇・対応等来所しやすい雰囲気に努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	手紙や面会時に行事予定を伝え、参加を呼びかけている。	○		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月利用者の写真や生活、行事の様子を報告している。来所時にも状態報告をしている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族様との話す機会を作り、その中で質問に分かりやすく説明している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族会等で認知症について説明し、病気や本人の状態の理解に努め、家族様の不安解消に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事や職員の異動等報告している。	○		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会を開催している。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	変化が見られたら、家族様に電話連絡を行い、理解が得られるよう努めている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時には必ず声かけをしている。毎月手紙を送付している。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約書を一緒に確認しながら理解・納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	必要に応じて退去先の支援を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	必要な書類を送付し、説明を行い同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	町内会長・民生委員とは関係が続いている。	/	○	/	地域の防災訓練に職員が参加し、地域の文化祭にも利用者と参加してきたが、民生委員を通じてさらに積極的に参加協力して欲しいと地域からの声が届いている。事業所としても利用者が地域とつながりながら生活できるようにしていきたいと考えており、今後の活動に期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	孤立しないように、地域との支援ができるよう努めている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	避難訓練等の際参加して頂く方々が少しずつ増えているが、まだまだ足りない。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	花を持って来てもらったり、ペットボトルのふたを集めて来てもらったり等少しずつ増えている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	あいさつを心がけている。会話を通して立ち寄ってもらえるよう努めている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	民生委員中心に地域住民の行事支援やボランティアの協力がある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域資源を使用し、生活支援をしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域資源を使用し、関係はできつつある。もう少し地域住民と関係作りができるよう努めていく。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	開催日を事前に案内し、参加して頂いている。家族参加者は減少しているが、来所時声かけを行い、参加を呼びかけている。	◎	/	○	運営推進会議には毎回地域住民や家族、利用者の参加がある。普段参加できない家族に向けて土曜日に開催する場合もあり、工夫が見られる。会議では日頃の利用者の暮らしについて報告しているが、参加者の発言が少ない状況のため、これまで提案のあったアイデアなどに対し、その後の経過報告を細かく行うことで、参加者からの発言を促し、さらに新しい意見を引き出す工夫が望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	必ず報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者から意見を聞き、取り組んでいる。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加者の都合の良い日や時間帯を聞き、1人でも多く参加して頂けるようにしている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	家族様に送付している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を基に、職員と行動指針を作り、共有を図った。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関ホールに掲示している。運営推進会議でも評価を報告し、理念を共有できるよう努めた。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	認知症に関する研修に参加している。	/	/	/	代表者は1～2か月に一度、事業所を訪問し利用者の状態や職員の様子を把握している。法人ではストレスチェックを実施しているが、職員がやりがいをもって働ける職場環境の整備に期待したい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	事業内での勉強会を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	法人内部で把握している。スキルアップ研修を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	包括・社協等連絡会に参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスチェックを行い、働きやすい職場作りに努めている。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修で学んだことを報告したり、ミーティングを利用し、研修(勉強会)を行っている。	/	/	/	毎月開催するミーティングで研修時間を設け、理解を深めている。日々の支援においても、虐待や身体拘束に該当する行為ではないか、職員が自分の支援を振り返っている。職員の振り返りを全体の対応に活かし、また不適切ケアを発見した場合の対応方法や手順について周知して欲しい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	振り返りができるよう努めている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修を行い、職員の意識は上がっている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスチェックを行っている。職員の変化には気を配っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	事業内で勉強会を行い、理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	拘束する場合話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	基本は拘束しないケアについて身体拘束適正化委員会を作り、運営推進会議で報告している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	事業所で制度について勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があり、パンフレット等で情報を伝えている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	以前は制度を使った利用者がおられた。後見人制度の研修に参加している。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	訪看に連絡し対応している。マニュアルを作成しており、急変時に備えている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	定期的な訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告を行い、職員間で対応等検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	状態の変化に応じて考えられるリスク等職員間で検討し、事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情窓口を設置している。都度対応を行い、現在トラブルはない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに対応し、関係作りに努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	要望を聞いているが、思いまではくみ取れていない。	/	/	○	利用者には日々の支援の中で、家族には面会時に意見や要望を聞くよう心がけ、外出や食事についての要望が聞かれている。職員からは浴室のリフト設置や地域の子どもの交流など、運営に関するアイデアが出ており、意見が言いやすい雰囲気づくりができています。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時など機会を作っている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	相談窓口に掲示している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者に報告し、共有できている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	利用者中心に考え、職員の意見を聞き話し合っている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム ミネルワ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	評価の意義を理解して、全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	サービス評価の取り組みについては運営推進会議で報告し、参加者から意見をもらっている。今回の外部評価では、運営推進会議参加者以外の地域の人にもアンケートを依頼していたため、それらの人への報告も検討している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員に評価を報告し、サービス向上につなげている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価をもとに計画を立て、取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	モニターの取り組みはしていないが、運営推進会議のメンバーに評価をしてもらっている。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会議で報告を行っている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災・地震の訓練を行っている。 一目で分かる避難経路ボードを作成している。	/	/	/	今回の事業所の避難訓練には地域の方も2名参加してもらった。管理者は、今後は地域にある他の事業所との連携も強めていきたいと考えている。地域との協力・支援体制の確保に向けた今後の取り組みの工夫に期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	特に夜間訓練に力を入れ行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	防災担当者が定期的に点検し把握している。 備蓄の期限も確認している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議時に訓練を行い、消防署からのアドバイスを受けながら体制を確保している。	△	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	防災士があり、地区の訓練に参加し連携できるよう努めている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	サポーター講座を行っている。 今後も認知症ケア、事業所のことを地域に発信できるよう努める。	/	/	/	事業所への入居相談以外には、地域からの相談は少ない。新たな取り組みである認知症サポーター養成講座の開催や、今後予定している地域にある総合福祉施設主催の研修会への参加、地域のボランティアの受け入れ等をきっかけに、地域との交流を深め、連携を密にしていく取り組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば支援を行っている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活動のための解放はしていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	前例なく受け入れていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	包括と連携し、認知症サポーター講座を行っている。	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年2月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	_____
事業所名	グループホーム ミネルワ
(ユニット名)	如月
記入者(管理者)	_____
氏名	中田 明伸 山住裕之
自己評価作成日	平成31年1月

<p>【事業所理念】 「心」と「心」の対話と傾聴を基本として 利用者の「今まで」「今」「これから」を共有し、お一人おひとりに寄り添ったケアに努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職員一人一人が日々の関わりを振り返る。・認知症の方に対する関わり工夫と勉強会を開く。 ・虐待・身体拘束の研修年2回行った。・職員の意識は変わったと思う。 ・行動指針を作成、毎朝提唱している。・事業所の方向性はできた。 2. 家族に分かりやすく消防・防災計画を表示する。・避難場までの地図を掲示、消防訓練に参加により、理解はされたと思う。 3. 事業所の運営上に関する事をわかりやすく広告する。・運営推進会議での報告、議事録を家族に送付している。 4. 会議を有意義な時間と取り組みに努める。・内容は参加者よりこれでいいと意見を頂く。内容の見直しに努めた。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>医療機関を母体施設に持つ事業所であり、主治医、訪問看護師、理学療法士との協力体制に加え、歯科医師とも連携が取れている。現在、利用者の多くは身の回りのことは自立しており、事業所は、レクリエーション活動などのプログラムに力を入れている。静かな住宅地に位置し、事業所周辺での散歩を日課としている利用者も多い。男性職員が多く、法人内で人事異動があるため、ベテラン職員と新人職員のバランスもよく、穏やかで家庭的な雰囲気が印象的な事業所である。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日常会話や家族との会話から、意向の把握に努めている。	◎		○	入居時に利用者や家族から聞き取り、入居後も継続して思いの把握に努めている。特に一対一の支援の場面において本音を引き出しやすいと考えている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	常に本人はどう思っているかを考慮して、検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族には定期的に連絡しており、電話や面会時に話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護記録に残したり、センター方式の様式を用いて確認できるようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを見落とさないように、傾聴の姿勢で関わっている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	情報提供票やセンター方式用紙にて、把握する。本人や家族にも聞き取りをしている。			△	家族の面会時や利用者から生活歴を聞き取っている。私の暮らし方シートを活用しているが、情報を整理することでより深い理解につなげることができ、更新を加えながらシートの活用を増やすことに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	職員間で共有する事項として関わっている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々のケアや申し送り時に把握し、共有している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人の状態観察・傾聴によって解決できる方法をその都度実行している。職員間で話し合いもしている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録、申し送りで把握している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンスで支援する方法を検討している。			○	日々の暮らしの中で新しく把握した事柄は、申し送りノートで共有し、毎月のカンファレンスで検討している。カンファレンスでは、事前に家族に意見を聞いておき、それらを踏まえて検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	家族、医療機関等と連携し、職員間で必要な支援を検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で情報共有し、明確化に努めている。				

愛媛県グループホーム ミネルワ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや、現状の課題についてを内容としている。				面会時や電話連絡時に家族の意向を伺い、思いを反映させた介護計画になるよう努めている。定期的に訪問している主治医や歯科医師、訪問看護師等の意見も踏まえて検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	3ヶ月毎にモニタリングし、本人・家族の思いを優先させた内容を作成できるようにしている。	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	その人が聴いてきた音楽を流す。意思疎通困難でも声掛けやスキンシップをとるなどして、関わりをもつように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族との協力体制はできているが、地域の人たちとの協力体制は安定していない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテにファイリングしており、見て把握できるようにしている。			○	短期目標を書き出してファイル表紙の裏面に貼付し、確認しやすいように工夫している。日々の実践記録は、短期目標に対しては○×でチェックし、確認している。暮らしの様子はケア記録に記載しているが、職員による気づきや工夫、アイデアを盛り込みながら充実した記録内容にしていきたいと考えている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日実施状況を記録している。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記録している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別に介護記録に記載。			△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月毎、要介護度の区分変更、状態が変わった時に実施。			◎	介護計画は3か月ごとに見直しを行っている。毎月のカンファレンスで全利用者の現状確認を行い、利用者が体調を崩した際には状態の変化に応じ、利用者や家族に意向を伺いながら、随時見直ししている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ミーティング、申し送り時に現状確認している。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	実施している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その日の出勤者で、話し合っている。			○	毎月のカンファレンスで課題について話し合い、緊急案件がある場合には日々申し送りで話し合いを行っている。話し合いでは、事前に担当職員がモニタリング表を記入して準備し、皆で検討していく形をとっている。カンファレンスの記録は当番で職員が行っており、会議録を回覧して情報共有に努め、参加できなかった職員は会議録を回覧し確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	1分間対話で、場の雰囲気を和ませられる時間をとっている。司会者は参加者が発言できるように努めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月開催日を決めている。早めに連絡している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を必ず見るように回覧している。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートに記入し、出勤時に確認するようにしている。			○	会議録や事業所全体の申し送りノート、ユニットごとの申し送りノートを活用し、情報を伝達している。確認後にはチェックや押印をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝、夕の申し送りの実施と、申し送りノートや連絡事項の文書を確認する。チェック欄あり、周知できているか分かるようにしている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	時間の都合によって、出来る時と出来ない時あり。	/	/	/	更衣やレクリエーションなど、暮らしの様々な場面を選択の機会としている。意思表示が少なくなってきたと感じる利用者もいるが、簡単に選択ができるように工夫して声をかけている。自立度が高く、レクリエーションを好む利用者が多いため、職員が積極的に場の雰囲気盛り上げる様子が見られた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レク活動の内容の選択、リクエスト献立の希望など、選択場面の機会がある。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	本人希望を優先して、希望にそった生活が出来るように努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活スケジュールはあるが、利用者のペースに合わせる対応をしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	興味のあるもの話題や冗談を言ったりして、笑える時間をつくっている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	職員と一緒にいき、利用者の意向に添えるように努力している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	意識はしているが、時に相手に不快な対応をとっているのではと思われる。	◎	○	○	人権やプライバシーへの配慮といったテーマは、年間の研修計画にも盛り込み、定期的に学習している。難聴の利用者への対応や、職員自身が慌てている時には、つい大きな声になりがちだとの気づきがある。居室への出入りはノックや利用者への声かけを行い、配慮が感じられた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	共有スペースでの利用者についての伝達は、部屋番号で話すようにしている。本人に聞こえる大きさを声掛けしている。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	十分に注意している。羞恥心は特に気にかけて対応する。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックを必ずする。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報の持ち出しはしない。十分に注意している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	すすんで手伝いをさせていただいており、助かっている場面が多々ある。感謝の言葉は必ず伝えている。	/	/	/	利用者の状態に合わせ、様子を見ながら必要に応じて職員が間に入り、トラブルを未然に防いでいる。状況に応じて配席を変更することもある。食事時間帯になっても姿を見せない利用者を、他の利用者が自主的に誘いに行く様子もあり、馴染みの関係が構築されている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	一人ひとりの得意なことや役割があり、利用者同士の助け合いができています。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	トラブルにならないように、見守ったり時に職員が間に入る等している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	早期に対応し、事が大きくなるように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム ミネルワ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	兄弟、家族の情報収集や会話にて把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族との交流にて把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	面会に来られたり、手紙が届くなど、馴染みの人物との交流はある。馴染みの場所へはドライブの行先に行っている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居心地よく過ごせるように、日々環境整備を行っている。季節の飾りつけ等で、温かい雰囲気づくりをしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	季節や職員の体制によっては、ほとんど外出できないことがある。	○	×	○	定期的に外出行事を計画し、季節に応じた気分転換を図っている。重度の利用者も含め、事業所周辺の散歩を毎日実施し、無理のない範囲で気軽な外出を楽しんでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	家族との外出はあるが、ボランティアや認知症サポーターの協力はできていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	外気浴や散歩、季節を感じられる支援はしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	季節に合わせた外出支援をしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	メンタルのケアについては、やや不足しているように感じている。	/	/	/	できるだけ利用者が自分で移動できるよう、立ち上がりバーの設置などの環境整備を行っている。できることが継続できるよう、ハサミや針仕事も職員が見守って積極的に行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	立ち上がり練習・歩行練習・体操・口腔体操を実施している。生活機能向上連携加算あり、PTの評価を受けて、実践している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事は本人にしてもらっている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の希望や役割など把握できている。	/	/	/	日めくりカレンダーをめくる係やプランターの水やり等を行う係、食器洗いを自主的に行っている利用者もいる。茶道が得意な利用者があるため、年に数回皆にお茶を点てるイベントを実施し、楽しみにつながっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	家事が得意な方には家事を、歌が好きには歌を等、活躍する場を提供している。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域や近隣施設のイベントには参加している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	お気に入りの服を着てもらおうとしているが、着回しができるように職員が管理する。	/	/	/	食事の際の食べこぼし等は、さりげなく職員がフォローする様子が見られ、季節に応じた適切な身だしなみが整うように配慮している。重度の利用者も同様で、家族の協力を得ながら支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人が散髪時に希望を言っている。家族に協力していただき、好みの持ち物や衣類の持参をお願いしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人に似あう髪型や服装を提案している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	実施している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声を掛けたり、介助して支援している。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族協力のもと、望みの店舗に行けている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族や職員間で話しあい、本人らしさができるよう努めている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事についての研修や職員個々の学習にて、理解できている。	/	/	/	調理専門のパート職員が、両ユニットの調理を担っている。調理専門職員が休みの際は業者の宅配メニューを利用しているが、残食が多いことから、職員による調理を検討している。洗米や調理の下ごしらえを利用者が手伝っている。利用者の好みを取り入れ、季節を実感できるような旬の食材を使用し、苦手なものは代替食材に変更する配慮がある。誕生日には外食が計画され、何を食べに行きたいか相談することも楽しみの一つとなっている。食器類は、入居時に使い慣れた物を持参される利用者もいるが、買い物で職員と選ぶ利用者も多い。利用者の食事サポートを行うため、職員は利用者とは別で食事をしており、行事の際のみ一緒に食べている。今後は利用者と職員が食卓を囲み、一緒に食事を取るよう努めてほしい。重度の利用者も同じ空間で食事を楽しんでおり、積極的な声かけを行っている。おやつ作りの他、ホットプレートを使用したメニューなど、利用者と一緒に楽しみながら調理できる機会も設けている。法人内の栄養士にアドバイスを受けて、利用者の飲み込みについて言語聴覚士に相談することもある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理、後片付けは実施しているが、一部の利用者のみ。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	特に調理・盛り付けでは、利用者の力の発揮、達成感につながっていると思う。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	フェースシートや本人、家族から確認をしている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	リクエストメニューや季節料理を提供している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	キザミの方でも、柔らかい物や好物は出来るだけそのままの形態で提供している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	できている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食事を摂っていないが、見守りや食べこぼし等のサポートは出来ている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事形態の工夫をしている。	/	◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、必要な方は水分量をチェックしている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	高カロリー飲料摂取や摂取回数を増やす等、対策している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは受けていない。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具の消毒、食材の鮮度を気を付けている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解している。歯磨き困難な方の介助や仕上げ磨きを取りいれている。	/	/	/	毎週歯科衛生士によるチェックを受け、口腔内の健康状況を把握している。毎食後、職員が声をかけ歯磨きを行い、できないことを職員が介助している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診あり。異常時も、歯科往診を利用している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯ブラシの当て方等、助言を活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎晩義歯洗浄剤を使って管理している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	介助が必要な方の口腔内清潔は把握できるが、自立の方の清潔確認が取れていない。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	週1回の往診や定期検診を行っている。その時に相談。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解はしているが、身体機能の低下に伴い、本人の希望に沿えない事がある。	/	/	/	できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。おむつを使用している利用者も、日中は積極的にトイレでの排泄支援を行っている。毎月のカンファレンスでは、排泄用品の使用が適切かどうか話し合いを実施している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を使用し、把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄チェック表にてトイレで排泄できるように支援しているが、身体機能の低下や状況によりおむつ使用はしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	改善できないか、職員間の話合いや他職種に助言を求め等している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の状態把握に努め、早めに誘導できている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	尿量や本人の状態を観察し、適切なおむつを使用するように支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中はパンツか紙パンツを使用だが、夜間は良眠される為おむつを使用する方がいる。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	便秘に効果があるセンナ茶を飲用したり、青汁を飲用している。が、薬にはたよっている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	×	曜日や回数は職員が決めている。温度や長さは利用者の希望にそっている。	◎	/	○	アセスメントで湯温の希望といった利用者ごとの好みを把握し、支援に活かしている。大まかに午前中に入浴時間を設定しているが、希望があれば毎日でも対応可能であり、夏場には回数を増やす配慮を行っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入浴剤の使用や職員とのコミュニケーション。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ない部分を介助する対応をしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いしていない。声掛けの時間を空けたり、違う職員が誘う等対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタル測定、入浴時の身体の確認、入浴後の爪切り、水分補給をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	睡眠については介護記録や排泄チェック表をみて把握。	/	/	/	服薬に関しては主治医と連携して対応している。日中身体を動かしたり、日に当たって活動的に過ごすことで薬を中止できた例もあり、減薬に向けての支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中は活動量を増やし、覚醒して過ごせるように関わっている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師にこまかく状況報告し、適切な処方を受けられるように努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個別に休息、昼寝時間を提案している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	筆記可能な利用者は、家族に手紙を書いている。電話については、難聴で会話のやりとりが難しかったり、電話をきっかけに不穏になったケースがあり、行っていない。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	できないという決めつけはしていない。随時対応している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	家族によるが、電話できるように配慮はしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	電話をかけたり、返信した利用者はいる。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族からの連絡あり。年賀状をいただく等。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を使う事で、社会参加する機会になる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	全員ではないが、日用品を一緒に買いに行ったり、商品を選択する機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先への協力は、特に働きかけをしていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	基本はお金の所持はしないように決めている。家族の理解はいただいている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人、家族に説明し了承を得ている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	領収書の発行、内訳等を明らかにしており、毎月郵送している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族の意見を尊重し、出来る限りの支援を取り組んでいきたい。	◎	/	○	家族の要望を受けて、医療機関の受診に同行している。利用者や家族のその時々ニーズに柔軟に対応したいと考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関は日中は解放されており、エントランスホールには季節にあった飾りつけやウェルカムボードを使って出迎えている。	◎	○	○	色とりどりの花をプランターで育て、玄関まわりは清掃が行き届いている。地域のボランティアや近隣住民の出入りが定期的であり、気軽さが伺える。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	子供向けと思われるおそれがあるが、利用者と一緒に制作した飾りつけを行っている。	◎	○	○	季節の壁面装飾は利用者と一緒に作ったもので、和やかな共用空間になっている。毎日の清掃や換気で清潔に管理されている。室内で観葉植物を育て、BGMを流しながら快適な空間づくりを行っている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除を行っている。不快な訴えは今のところない。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じられるものはその都度飾っている。食事時は音楽をかけてリラックスできるよう配慮している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	馴染みの関係で過ごす方多い。居室にて休息を取る方もいる。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	共用フロアからは見えないように設計・建築されている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居時に使い慣れた家具、道具を配置している。また、その都度追加、持ち帰りにて居室環境の工夫をしている。	◎	/	○	利用者はたんすや椅子、鏡台や家族の位牌などの大切なものを持ち込んで、それぞれが居心地良く生活できるよう、環境づくりに努めている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレの扉に、大きく貼紙場所を分かりやすくしている。居室内での移動・移乗に椅子等の掴まれる物を配置し直している。	/	/	◎	トイレや浴室には、利用者が認識しやすいように大きめの表示で工夫している。歩行が自立している利用者がスムーズに立ち上げられるよう、トイレには立ち上がりリバーを追加し、できることを継続させられるよう環境整備に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	安心できる環境づくりをしている。危なかった物や転倒等の原因となった物品は片づけている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	手に取れるようには置いていない。雑誌、裁縫道具等は職員が管理している。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中は施錠せず、開放状態。夜間は防犯のため、施錠。	◎	◎	◎	日中は施錠せず過ごしている。職員は鍵をかけない暮らしについて理解し、利用者の帰宅願望の強い時や落ち着かない日には、常にそばに寄り添って支援に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族へは十分に説明し、理解していただいている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関に人感センサーを設置している。また、職員は利用者の所在、動向の把握に努め、無断外出にならないように気を付けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	情報の確認、共有は必ず行っており、把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	バイタルや身体異常の観察を十分行い、記録に都度残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	週1回訪問看護を受けている。また、毎日状態報告し、必要時は電話にて指示を仰いでいる。月2回の往診時にも相談、指示を仰いでいる。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	母体の病院への受診が主だが、本人、家族の希望医療機関にも受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	かかりつけ医と連携がとれており、適切な医療を受けられるように支援できている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	必ず結果報告し、家族の意見も取り入れながら通院している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	書類作成し、情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	1ヶ月以内の退院ができるように相談しており、近年のケースでは、長期入院には至らず。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	往診時や電話連絡にて、関係づくりは出来ている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎日状態報告を行っている。訪問看護との関係づくりはできている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護や病院に24時間相談できる。電話連絡できる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	小さな変化でも電話連絡している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	処方?や服薬管理表をみて、理解できるように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬は、名前、日付、内容量を職員間で声にし、服薬確認まで必ず行う。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	副作用の理解をし、状態観察、情報共有をしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化、経過を毎朝報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	電話や面談にて、その意向を確認し、共有している。	/	/	/	母体が医療機関であり、主治医や訪問看護師などの医療関係者と密に連携を図り、重度化や終末期の在り方について家族と方針を共有している。現在までに看取りの経験はないが、勉強会を開催して理解を深めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族との面談でまとまった内容は、医療機関へ報告に行き、方針を伝えている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	必要な時に話し合い、グループホームでどこまで対応するか見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族から反対意見はでていないため、今後も十分な説明を行っていきたい。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看取り経験の例が無いため、看取りについての勉強会や医療機関、訪問看護と連携を強めていく。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	家族に心理的支援ができるよう、今後も関係性を築いていきたい。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	定期的(年1~2回)勉強会は行っている。感染症対応を経験した職員が多いが、新人や感染症対応の未経験者には、随時勉強会を開催したい。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	訓練を行っていないため、いざという時に慌てる恐れがある。訓練を行う機会をもちたい。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報は運営推進会議にて、行政機関、包括等から得ている。また、内部でも情報入手して対応している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	流行の情報が入れば、定時で換気を行い、手に触れる箇所を消毒している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	利用者のうがいは徹底できていないが、手洗いは励行している。洗面所の壁に手洗いの手順の掲示物あり。また、マスク着用、ご家族にもお知らせ、お願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	日常的に喜怒哀楽をともにしている場面がある。	/	/	/	毎日のように食事介助に来所する家族もいる。季節ごとの大きなイベントは、各家族に案内し、大半の参加・協力を得ている。毎月利用者の暮らしぶりを写真を添えて伝え、面会時にも報告するように努めている。事業所の出来事や職員の異動などの報告も積極的に行っている。家族には気軽に相談してもらえるよう、声かけに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	挨拶、利用者の様子報告、世間話等、家族とのコミュニケーションをとっている。空調の調整や物品の貸し出し等行っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	食事作り、行事での食事等、参加の案内を出し、クリスマス会では、大勢参加していただいた。	○	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「たより」の発行、ブログ、毎月家族へ手紙を出す等、疎遠になりがちな家族も日常生活が分かるようにしている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時に特に具体的な内容を報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症や病状の理解が難しい場面では、丁寧に資料等用いた説明をする。また、かかりつけ医より説明していただく機会をもっている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	電話や文書、面会にて報告、協力を得るようにしている。	○	/	◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事や旅行は企画できていない。家族会は行えたが、開催回数を増やしたい。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	リスクについては、状態をこまかく説明し、理解が得られるように努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	受診や何か変わったことがあれば、積極的に連絡している。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約については、一緒に内容を確認していき、疑問点はすぐに対応し理解、納得を得られるようにしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	納得のいく退居事例がほとんどである。退居先の支援も行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	内容変更、同意書の文書作成を行い、ちいせ必ず同意を得られている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の人への説明はできている。町内会長や民生委員等理解、助言、協力を得ている。	/	○	/	地域の防災訓練に職員が参加し、地域の文化祭にも利用者と参加してきたが、民生委員を通じてさらに積極的に参加協力して欲しいと地域からの声が届いている。事業所としても利用者が地域とつながりながら生活できるようにしていきたいと考えており、今後の活動に期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	祭りや文化祭への参加はできたが、これからは、よりつながりが持てるように機会を増やしたい。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	増えていない。支援者はいる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	気軽に立ち寄ったり、遊びに来たりはない。アプローチ出来ていない。取り組みたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近所の方と挨拶している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	民生委員を中心に、地域住民の行事支援がある。生け花や踊り等のボランティアも受け入れている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域資源の把握が充分ではない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	理美容店、福祉施設の協力がある。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	出席される家族、地域の人達が固定。いろいろな方に来ていただけるようにはたらしめたい。	◎	/	○	運営推進会議には毎回地域住民や家族、利用者の参加がある。普段参加できない家族に向けて土曜日に開催する場合もあり、工夫が見られる。会議では日頃の利用者の暮らしについて報告しているが、参加者の発言が少ない状況のため、これまで提案のあったアイデアなどに対し、その後の経過報告を細かく行うことで、参加者からの発言を促し、さらに新しい意見を引き出す工夫が望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告出来ている。取り組み状況は写真も使っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	取り組みの意見や感想を聞いている。提案は積極的に取り入れている。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	毎回は難しいが、休日に開催する等の調整は可能。日曜日に開催した会もある。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録の掲示、郵送にて公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員の共通認識、心構えとして、理念の他に行動指針を設定している。朝礼時に勤務者は読み上げている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関ホールに掲示している。また、ホームページにも掲載している。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員が受講したい研修に出席できるように、勤務体制の配慮がある。	/	/	/	代表者は1～2か月に一度、事業所を訪問し利用者の状態や職員の様子を把握している。法人ではストレスチェックを実施しているが、職員がやりがいをもって働ける職場環境の整備に期待したい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	介護にあたっての助言やミーティングでの勉強会等実施。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人本部で把握している。給与水準は実績や向上心等を評価し、見合うものとしている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会、社会福祉協議会、包括等の研修に参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスチェックを定期的に行い、対話する機会をもっている。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	定期的に高齢者虐待について研修を実施し、理解する。事例検討も行う。	/	/	/	毎月開催するミーティングで研修時間を設け、理解を深めている。日々の支援においても、虐待や身体拘束に該当する行為ではないか、職員が自分の支援を振り返っている。職員の振り返りを全体の対応に活かし、また不適切ケアを発見した場合の対応方法や手順について周知して欲しい。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	勤務中の空時間や申し送りでその都度話し合っている。ミーティングの開催。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切な対応をした職員には、注意している。本人に何がどのように不適切だったのか考えさせ、虐待について考え、学ぶ機会をつくっている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	日々の会話や表情から、職員の変化に気を付けている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に研修にて理解を深めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	拘束となる場面をミーティングや勉強会で、意見交換している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	基本的には身体拘束をしていない旨を説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	権利擁護のパンフレットで説明はしている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	行政と協力して、制度を利用した方はいた。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	包括、社協との連携は築けている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変時対応マニュアルにそって対応している。訪問看護と連携している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行えておらず、実践力について不安がある。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット、インシデント、アクシデント報告を職員間で共有し、再発防止策を検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	センサーマット(ナースコール連動)の使用や居室で掴める箇所を増やす工夫をする。特に転倒防止に力を入れている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情窓口は設置している。その都度対応できており、トラブルになった件はない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに苦情に対して解決に至っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	前向きに検討していき、良好な関係をつくっている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	職員が要望を聞き取り、沿う様に対応している。	/	/	○	利用者には日々の支援の中で、家族には面会時に意見や要望を聞くよう心がけ、外出や食事についての要望が聞かれている。職員からは浴室のリフト設置や地域の子どもの交流など、運営に関するアイデアが出ており、意見が言いやすい雰囲気づくりができています。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時や電話にて機会をつくっている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	必要があれば提案している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者と毎週面談する機会がある。情報の共有はしている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	申し送りやミーティングで話し合う時間をとっている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム ミネルワ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	評価の意義を理解し、全員が自己評価している。				サービス評価の取り組みについては運営推進会議で報告し、参加者から意見をもらっている。今回の外部評価では、運営推進会議参加者以外の地域の人にもアンケートを依頼していたため、それらの人への報告も検討している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題をミーティングで共有している。学習機会にも充てている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	職員全員が目標達成計画を把握し、実現にむけて動けるように意見を出し合っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で報告している。家族報告も合わせてしている	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	成果の確認はしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災・地震訓練を行っている。一目でわかる用に、避難マニュアルボードを作った。				今回の事業所の避難訓練には地域の方も2名参加してもらった。管理者は、今後は地域にある他の事業所との連携も強めていきたいと考えている。地域との協力・支援体制の確保に向けた今後の取り組みの工夫に期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日勤・夜勤帯ともに想定して行った。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期点検している。期限切れは交換している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署、近所の方の連携はあるが、他事業所との連携がとれていない。	△	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	防災士があり、防災連合会に参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	定期的な開催が出来ていない。特に介護教室や認知症サポーター養成研修の活動を増やしたい。				事業所への入居相談以外には、地域からの相談は少ない。新たな取り組みである認知症サポーター養成講座の開催や、今後予定している地域にある総合福祉施設主催の研修会への参加、地域のボランティアの受け入れ等をきっかけに、地域との交流を深め、連携を密にしていく取り組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があった場合は支援している。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所開催は出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	実習の受け入れはない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	他の事業所との協働に力を入れたい。			△	